

# 湖畔の森散策ガイド



満濃池の歴史を知ろう！



人工自然のさかかきを知ろう！

森林散策の楽しみ



## 国営讃岐まんのう公園「ドラ夢」

マスコットキャラクター  
 数ある満濃池の伝説の中でも、龍神伝説はその代表的なもの。  
 「満濃池の主である竜は雨を呼び、天に昇り、遠く京都は鞍馬山  
 にも出かけて鬼を退治」したほどの活躍ぶり。この竜にスポットを当  
 ててマスコットキャラクターに起用しました。  
 「ドラ夢(どらむ)」というネーミングは、一般公募で選ばれた丸亀市  
 内の小学生のアイデアで、「ドラゴンが夢の公園に連れていってく  
 れる」ことをイメージして名付けられました。

湖畔の豊かな自然環境を保つためにご協力下さい。

- 動・植物は取らないで下さい。
- ゴミはお持ち帰り下さい。
- 園路、デッキから外れないで下さい。
- 喫煙場所を除いて、すべてのエリアは禁煙です。
- 季節により、ハチ、ヘビなどにご注意下さい。
- 携帯電話の電波がとどかない場所がありますので、ご注意ください。



## ■湖畔の森へのアクセスマップ



## ■お問い合わせ

まんのう公園管理センター

〒766-0023 香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12 TEL(0877)79-1700 FAX(0877)79-1705

まんのう公園ホームページ…… <https://sanukimannopark.jp/>







# 各コースの特徴

## パノラマコース

〈約30分コース〉

パノラマコースでは、『満濃池展望遊歩道』、『池見の丘』といったスポットから、かんがい用ため池としては日本最大級の規模を誇る満濃池やその堰堤、そして金毘羅さんとしても有名な象頭山を望む大パノラマを楽しむことができます。

『満濃池展望遊歩道』は、車イスによる利用が可能なバリアフリー施設です。



満濃池展望遊歩道



★1 池見の丘

## 湖畔の里コース

〈約90分コース〉

湖畔の里コースは、かつての里山環境を復元した『湖畔の里』へと続くコースです。樹林の中の園路を進み、歩道橋を渡ると、そこには雑木林に囲まれた昔ながらの田畑が広がります。ここでは、昭和30年代の里山や里地を間近に見ることができます。

また、季節イベント時には、家族で農作業などの体験を楽しむことができます。

湖畔の里に向かう途中、枝葉のすき間から日差しがさしこむ『こもれび広場』や、水辺の動植物を観察できる『谷の八ツ橋』、植林された針葉樹が整然と立ち並ぶ『半島広場』、山頂部に広がる『アカマツ広場』など、『湖畔の森』の魅力に満ちたスポットに立ち寄ることが出来ます。



湖畔の里



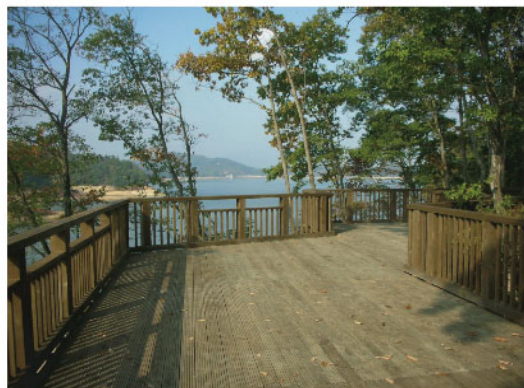
里山活動

## アカマツ林と棚田コース 〈約60分コース〉

アカマツ林と棚田コースでは、この地の風土を代表するアカマツ林と、その林床のオンツツジや野草が見られます。谷筋の、放棄されたかつての棚田では、湿地から樹林へと移り変わる植生遷移を観察することができます。高木に囲まれた静かな谷戸やため池では野鳥の鳴き声が響き、心穏やかな散策が楽しめます。岬の棧橋では、湖面に近いデッキから水辺の眺望が楽しめます。



棚田跡の湿地



★2 岬の棧橋

## その他

### 「まんのう森図鑑」

『まんのう森図鑑』では、樹木や山野草を間近に見ながら、園路に設置された解説板や樹名板によって、植物の名前や森の不思議を楽しんで学べます。

### 「ガイドツアー」

『湖畔の森』では、インタープリターボランティアによるガイドツアーや季節限定のさまざまなプログラムが用意されています。詳細は、下記までお問合せください。

まんのう公園管理センター：TEL(0877)79-1700



ガイドツアー



★3 こもれび広場



# 湖畔の森の自然と人とのかかわり

## 瀬戸内式気候と森の特徴

香川県の気候は、雨が少なく温暖なため、大気が乾燥しているのが特徴です。これを瀬戸内式気候と呼んでいます。また、日照時間が国内でもっとも長いことも特徴のひとつです。さらに、花崗岩が広く分布していることもあり、満濃池周辺の土地は養分の少ないやせた土地となっています。

このような土地の尾根筋では、やせた土地でも生育できるアカマツが多く、『湖畔の森』一帯に広がるアカマツ林は、瀬戸内地域を代表する樹林といえます。アカマツのほかにも、ネズ、ナツハゼ、ネジキなど乾燥に耐えることができる植物が生育しています。また、林内には低木のオンツツジが多く、春には鮮やかな赤い花をつけます。

中腹から谷筋にかけては、コナラ、アバマキ、ヤマザクラ、ソゴなどの落葉広葉樹の雑木林が広がります。樹林内には、コバノガマズミやイボタノキのほか、シハイスミレやツルリンドウが彩りを添え、カブトムシやクワガタムシ、オオムラサキなどの昆虫が樹液に集まり、サンコウチョウやオオルリなど野鳥の鳴き声が響きます。ときに大空を滑空するオオタカも見られます。

ため池では、ジュンサイをはじめとした水生植物が生育し、トンボ類やカエル類、サンショウウオといった生きものが観察できます。

一方で、木材を取るために植林されたものの、今では放置されてしまったヒノキ林やスギ林を見かけることもあります。



オンツツジ



カブトムシ



アカガエル



シハイスミレ



タイワンウチワヤンマ

## ●アカマツ林 満濃池展望遊歩道、アカマツの尾根、アカマツ広場

アカマツは、乾燥しやせた土地に、他の植物に先駆けて生育する樹木です。私たちがよく見かけるアカマツ林のほとんどは、もともとあった別の樹木が伐採された後に発生したもので、このような樹林を二次林と呼びます。瀬戸内の山林を代表する樹木として多く見られたアカマツですが、昭和40年頃から人が手入れをしなくなったことや、マツノザイセンチュウによるマツ枯れ病の広がりなどによって衰退しつつあります。



アカマツ林

## ●ハンノキ林 棚田の湿地、谷のハツ橋

ハンノキは、水が貯まる場所でも根の呼吸ができる特別な性質を持っているので、普通の樹木が生えないような湿地でも育つことが出来ます。また、根は菌と共生して、空気中の窒素を養分にするのでやせた地でも生きていけます。

## ●コナラ混交林 こもれび広場、湖畔の里、棚田の湿地

斜面の中腹など、やや湿り気がある場所には、コナラやアバマキを主体とする雑木の林が広がっています。このような林は、かつては下草刈りや間伐を行って利用されていたので、林内は明るくたくさん野草がみられました。高度経済成長期以降、薪や下草が利用されなくなると、ソゴ等の常緑樹が増え、現在のようなコナラ混交林が形成されました。



コナラ雑木林

## ●ヒノキ林・スギ林 岬の桟橋、半島広場

ヒノキ林やスギ林は、建築や家具といった木材用に植林されたものです。よい木材を採るためには育林の管理作業が欠かせません。下草刈り・枝打ち・除伐・間伐などの管理作業を数十年続けて、やっと木材として利用できる大きさととなります。ヒノキはやや乾燥したところを好み、スギは湿潤なところを好みます。

## 人と自然のつながり

かつて香川県では、乾燥した気候を利用して、製塩や製糖、瓦の製造が盛んに行われていました。そのための燃料として、火力の強いアカマツは大変重宝されていました。また、人々の生活には、里山林としてコナラ混交林が密接にかかわっていました。伐採された樹木は、薪や炭の原料として、また、シイタケ栽培のホダ木として使われました。刈り取った下草や落ち葉は、田畑の肥料や苗床、家畜のエサに使われました。このように、里山の植物は、私たちの生活になくてはならない作物のひとつとして管理され、育てられていたのです。その結果、アカマツやコナラが優占する二次林が広がり、そこに多様な生きものが生息・生育していました。

また、香川県をはじめ、瀬戸内地方の多くに作られたため池は、田んぼの水の確保と洪水の調整をするための人によって管理された水域です。その一方で、多様な生物相を維持する重要な機能も併せ持っていました。ため池では、農作業のサイクルに合わせて水位が変動し、管理のために数年に1度池干しが行われていました。このような人の管理によって水利としての機能と多様な生態系をはくむ機能が保たれていたのです。



水田耕作

## ●ため池

ため池は、谷に土を盛って雨水や湧き水をせき止めた人工的な池のことです。田んぼへ配水したり、洪水を防止したり、さまざまな働きがあります。また、生きものたちの棲家としての役割も担っています。ため池は、堤側の水深が深く、上流側の水深が浅い構造となっています。そのため、水深や土壌の違いから、さまざまな生きものを育みます。



# 満濃池の歴史

## 満濃池の概要

満濃池は、大宝年間(701~704年)に讃岐の国守道守朝臣によって築られました。しかし、築造後100年以上経った弘仁9年(818年)洪水により決壊してしまいました。時の朝廷はその修築に築池使路真人兵衛を遣わしましたが復旧することができず、改めて空海に依頼しました。空海は、2ヶ月余りの短期間で満濃池を修築しました(弘仁12年7月)。修築当時の満濃池は、七箇村、神野村、吉野村の3村にまたがり、池の周囲は2里25町(約8.25km)、池の面積は81町歩(約81ha)の規模だったといわれています。



空海(弘法大師)象:神野寺

## 空海による修築の特徴

空海(弘法大師)が行った満濃池の修築には、唐(中国)から持ち帰った築造技術が3つ使われているといわれています。

①岩山にはさまれた谷に土を盛りたてて水をせき止めるとき、堰堤をまっすぐに作ったのでは、池の水圧に耐えられるように堰堤の盛土を大きくしなければなりません。その一方で、堰堤をアーチ型にすると、少ない盛土で池の水圧に耐えられ、さらに余水吐(放水路)も短くすることができます。アーチ型の堰堤としたことで工事が大変はかどりました。

②堰堤池側の水際に護岸のための「しがら工」を設けました。強風時の波や水位の変動は、堰堤の表面を洗掘し、最後は堰堤を決壊させてしまいます。しがら工はこれらから堰堤を守るのに有効でした。

③洪水時の余分な水を川に流すため、岩盤を開削し、余水吐を設けました。これによって、大雨や長雨で池の水かさが増えても、増水した分の水を余水吐から流し出すことで堰堤の決壊を防ぎ、安全性が高まりました。それまでは、大雨のたびに堰堤が決壊しないよう、人の手で池のコル抜きをして放水しなければならず、常に堰堤の決壊が危ぶまれていました。

この余水吐は、岩の表面を大工道具の手斧で削ったような形になっていたため、後に弘法大師の「お手斧岩」とよばれるようになりました。



満濃池御普請所絵図  
(香川県歴史博物館提供)



堤の護摩壇

## 満濃池の龍神伝説

かんがいがため池として日本最大級の規模を誇る満濃池には数々の伝説がありますが、有名な「今昔物語」には満濃池の龍神伝説が書き綴られています。

昔々、広大な満濃池には竜が棲んでいました。①この竜がへびに化けてひなたぼっこをしていると、②トンビに化けた天狗に捕まり、近江国(現在の滋賀県)の洞窟に閉じこめられてしまいました。

③竜は、もとの姿にもどるために必要な水が一滴もなく困っていましたが、同じく天狗にさらわれてきた小僧さんより一滴の水をもらい、飲みました。④たちまち竜の力を取り戻し、小僧さんを助け天狗を退治しました。

この龍神伝説にあやかってか、満濃池北側の土地(現まんのう公園)は竜頭地区と呼ばれていました。まんのう公園の『竜頭の里』や『竜頭の森』は、これにちなみ命名されました。



## ため池データ

●堤体形式	中心コア型土堰堤	●取水施設	取水塔高 30m
●堤高	32.0m		内径 5.0m
●堤長	155.8m		吸水管
●貯水量	15,400千 <sup>3</sup> m		φ800mm 8ヶ
●堤体積	218千 <sup>3</sup> m	●底樋管・隧道延長	197m
●満水面積	138.5ha	●放水量	4m <sup>3</sup> /sec
●流水面積	直接流域 1,280ha	●余水吐	側溝余水吐
	間接流域 8,610ha		110m <sup>3</sup> /sec

## わかりやすく表すと・・・

- 池の深さは6階建てのビルに相当します。
- 池の周りは約20km。歩いて5時間ほどかかります。
- 池の貯水量は、甲子園球場を樹にすると約26分に相当します。
- いっぱいになった時の水面の大きさは甲子園球場が35個入ります。

